

香港通菜街—いわゆる金魚街—で見られた侵略的外来種等の流通状況

中川雅博（びわ湖サテライトエリア研究会）

飼育できなくなった水生生物を屋外に遺棄した結果、その種が本来の分布域でない水域に定着する例がいくつかある。観賞魚店で販売されている水生生物を定期的に記録しておくことは、外来種伝播の予測や、侵入の予防策を策定する際の参考情報となる。そこで、演者は2008年8月に、様々な水生生物が販売される香港旺角の通菜街にある通称「金魚街」において侵略的外来種の販売状況取材した。今回、着目した外来種は、「侵略的外来種ワースト100」に世界版と日本版の両方で選定されているスクミリンゴガイ *Pomacea canaliculata* とアカミミガメ *Trachemys scripta* の2種である（後者では、ミシシッピアカミミガメ *T. s. elegans* が日本版に選定）。

まず、この金魚街には約200mの通りに、数十軒の観賞魚店があることを確かめた。このように観賞魚店が密集するのは、金魚が「金運をもたらす」、「悪い邪気を飲み込んでくれる」というように風水的に縁起がよく、香港人が職場や家庭でよく魚を飼う文化があるためである。販売されている水生生物は各種のキンギョのほか、グッピーやベタ、その他の熱帯魚、水草、カニ類、アメリカザリガニ類、カエル類、カメ類など多様であった。魚類は過密な状態で販売されていたが、少なくとも取材時においては病気の個体はほとんど見られず、個体の状態はかなり良かった。水生生物を収容している容器は、ガラス水槽や、プラスチックケースのほか、名物の「袋売り」（酸素パックした袋に水生生物を入れて壁に吊るして売るスタイル；縁日で売られている綿菓子に似た販売スタイル）であった。

南米原産の淡水巻貝であるスクミリンゴガイは、少数の店舗にて袋売りで売られていた。1袋に2~3個体（殻高5cm程度）が入れられており、その価格は2個体で30香港ドル（約420円；取材時）であった。このような袋が、1店舗あたり10袋ほどあった。

アメリカ南部原産のヌマガメ科のアカミミガメは、約10店舗においてプラスチックケース等で売られていた。サイズは背甲長が5cmの個体で15香港ドル（約210円）であった。このサイズは、ミドリガメの名称でわが国でもよく流通しているサイズである。販売されている個体数は相当数あり多く、ある店舗の1つのケースに50個体が収容されていた。そのほかにも、背甲長が12cmの個体も売られていた。

なお、オオクチバスやコクチバスといったブラックバス類やブルーギルの販売は少なくとも取材時には確認されなかった。その一方、遺伝子組換え（GM）されたとみられるゼブラフィッシュが袋売りスタイルで販売されていることを確認した。GM魚もまた、定着した場合に生態系に悪影響を及ぼすと懸念される生物である。

今後、侵略的外来種や注意を要する水生生物の販売状況を、袋売りが名物の当地で定期監視する予定であり、演者は現地取材を補完する方法として、google 地図のストリートビューや、旅行者がブログで掲載している写真の活用を検討している。